九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[10_01]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/1472520

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 10 (1), 1977-03-01. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

所　　感

田 町 常 夫*

新しい巻の始めにあたり，当大型計算機センターの現況や将来のことについて少しく所感を述べてみたいと思います．

本センターは昭和４４年に業務を開始してから本年で満８年になりますが，その間，最初のFACOM２３０－６０に対して数回の機器構成の変更を重ね，さらに昭和４９年９月FACOM２３０－７５に機種変更後も機器構成変更やソフトの改善を行って，たえず利用者の増加に対処してまいりました．

この間のセンターの利用状況は，ジョブ処理件数でいうならば，年々４０～５０％の割合で増加しており，最近２～３年は件数の伸びは多少鈍化しているものの利用法の多様化や計算の長大化が目立ってきております．すなわち，TSSについては昭和４８年から全面運用が開始されましたが，最近ではローカルバッチ，リモートバッチ，会話型の処理件数の比率はほゞ５５％，２０％，２５％（昨年１１月）となっており，開始当時に比べリモートバッチ，会話型が著しく増えております．一件あたりのCPUタイムはそれぞれ実件数で３９.２秒，５７.１秒，４.４秒，全体の平均で４０.５秒となっております．

西日本地区は地域が広く，本センターの利用機関も多くて（連絡所数６８），現在九州工大，山口大学，九大理学部基礎情報学研究施設は２４００bpsで，愛媛大学は４８００bpsで本センターと結ばれており，全体で２２端局が接続されております．TSSの利用が年を追って増加してきた半面，メモリ，ファイルの不足から結果的にターンアラウンドタイムが長くなり，利用者各位には大変ご迷惑をおかけしております．このまゝでは便利な会話型の利用に無理に拍車をかけるようなことになりますので，センターとしては早急にソフトウエアの改良，メモリの増強その他種々の工夫を講じることが必要となった次第です．

幸い，本年度はレンタルのわく内での機器増強によって昨年１１月，メモリ４４８KWに６４KWが追加され，集合ディスク装置は２４００MBまで増強されました．その結果，処理効率の改善にかなりの効果が現われて来ております．昨年２月のピーク時には徹夜運転の連続でやっと切り抜けてきた状況ですので，本年２月にはこの増強でどうやらしのげるのではないかと考えます．しかし，この程度では現在の趨勢から言って５３年２月のピークを乗り切ることは困難と予想されますので，センターではすでに一昨年からシステムの変更を文部省に要望し，概算要求を行っているわけであります．新システムの検討に関しては，先般来皆様から種々の御意見，御希望をお寄せ頂き有難うございました．

なお今一つ皆様に御迷惑をおかけしていることは，通信回線の不足のために端局の新設の御要望を受けながら，センター側の準備が遅れていることであります．現在，設置の申請中または予定のある端局数は２００bps６局，２４００bps，４８００bps各１局となっておりますが，九州大学と電々公社間の局線不足のため実施ができずにおります．さしあたり１００回線程度の新設を早急に実現してもらうよう公社に要望しております．

今後，特定回線のほか公衆回線を利用したポータブルターミナルなど，急速に増えると思われますし，ネットワークを中心とした将来計画などは今後の大型計算機センターの課題でもありますので，皆様の御意見を伺いながら積極的に取組んで行きたいと考えます．

＊ 大型計算機センター長，工学部教授

一方，最近は大型計算の結果に期待がかけられているような研究も増えており，機能的に大型なものに対する需要は当分増加していくでしょうし，この意味で次期システムとしては4～5年先までの需要（年40％増＝2年で2倍）をカバーできるような性能のものを期待しております．

大型計算機センターというのはつねに落着くことのできないような状況下にあるようで，これがセンターの当面の使命かとも考えますが，職員一同張切っております．

またセンターの運営や次期システムの検討に関しては，学内や各大学の研究者の方々に大変御迷惑をおかけして，つねづね恐縮しておりますが，それにもかゝわらず，積極的に御協力頂いておりますことはまことに感謝にたえません．

センターとしては今後いろいろ考え，また独自に研究していかなければならないことが多いように思われますが，何とぞ皆様の一層の御協力をお願いする次第です．